

学習リーダー心得

1. 班で話し合う目的＝全員が授業に参加

班を使わずに授業をすると、わかり方の早い人や国語が比較的得意だったり好きだったりする人はたくさん発言しますが、苦手（本当は苦手じゃなくても苦手意識がある人もいる）な人、好きではない人、また海外生活が長くて理解するのに時間がかかる人は何をやっているのか絞きれないままどんどん授業に置いていかれてしまいます。置いていかれた人にとってそれはとても不利益なことであり、そういう状況自体とても不公平なことです。しかし先生が一人でそういう人を探して個別に指導していくことは限られた時間では難しく、またそれによって全体のリズムが悪くなって、結果として退屈な雰囲気のある授業にもなりかねません。そこで、小さいグループごとに話し合うことによって、それぞれでお互いをフォローしあい、全員が参加する授業を目指しているわけです。

2. 具体的にどうすればいいか？

(1) リーダーの人は、とにかくその小グループ全員が授業に参加できるように努めてください。参加できずに損をする人がいないようにしてください。そのための具体的方法としては、まずリーダーの人は自分も含めて一人一人から意見を聞いてください。「〇〇さんの意見は？」「□□君、どう思う？」というように。ただ、中にはすぐに答えられない人もいます。そういう時には、もっと具体的に、「Aという意見とBという意見の二つがあるんだけど、〇〇さんはどちらだと思う？」と聞いたり、「私（リーダー）は〜〜という理由でAだと思うんだけど□□君はそれに賛成、反対？」と、少しずつ具体的に答えやすいように聞き方を変えてあげたりします。そうしてゆくことによって、みんなが先生の問いかけについて考えられるようになり、授業に参加している状態をつくり出すことができるようになります。

(2) また、班の中でみんなが発言できるようになったら、今度はその班の人が全体の場で発言できるようにしていきましょう。ただし、ここで注意すべきことは、何も話していないのに、ある人に発言だけを押しつけないようにすることです。何を発言したらいいかわかっている人ならよいですが、そうでない人にとっては「発言する」こと自体相当なプレッシャーになります。リーダーの人は、「〜〜ということについて、この班の意見は△△△ということだから、それを〇〇さん、発言してくれる？」とわかりやすく確認してあげてください。それでもためらっている場合は、「私（リーダー）の発言のあとに〇〇さん、〜〜と付け足して」とか、逆に「□□君が〜〜と言ったら、僕が△△△と付け足すからね」と約束してあげると、班の人はとても発言しやすくなります。

3. 先生への要求を遠慮しないで！

先生はできるだけ全ての班が集中しているか確認しながら授業を進めますが、場合によってはまだ話し合いが終わっていない班があるのに見落としてしまうこともあるかもしれません。また、つつい興奮して、自分しか読めないような雑な字、小さい字で板書することもあるかもしれません。そんなときは、リーダーの人が中心になって、「黒板の字が見えません！」「もっと意味がわかるように説明してください！」「話し合いの時間をあと2分ください」と注文してください。全員参加の授業、そしてみんなが主人公の授業にするために、これもとても大切なことです。

4. 他の班の意見につられない大切さ

本当に話し合った上で、他の班と同じ意見になるのならよいのですが、何も話し合わずに他の班の意見を真似するだけ、というのはやめましょう（よっぽど簡単なときは別ですが）。たとえば全ての班が同じ意見を出し、実際に先生の説明でも同じ答えになったとしても、そこから得られるものはあまり大きくありません。むしろ、いろいろな意見をまな板にのせて討論するなかで、文章中から証拠を探す努力をし、また他の班への反論を考えてそれを言葉にしていくことの方がよっぽど大切です。たとえば「発端」を決める授業では、たしかに「発端」について話し合いそれを決める方向で授業は進んでいきますが、本当の目的はそこにあるのではなく、その話し合いの過程を通じて文章の特徴や仕掛けを明らかにし、同時に他の作品にも通用する「読み」の方法をみんなが身につけ、その結果としてみんなの国語力がつくことにあるのです（今までにもすでにそういう経験があったでしょう）。

5. リーダー自身の国語力アップにもなる

みんなが授業に参加し、話し合いに集中し、いろいろな意見を言えるようにするには、とにかくリーダー自身がまず授業に集中する必要があります。そうでないと、グループの人が何について話し合えばいいかわからない時や、3で述べたような要望があるときに、適切な指示をしたり要求を出したりできなくなるからです。ということは、言い換えればリーダーをやることによって、自然に授業のポイントを抑える習慣がついてくるとも言えます。また、先生の言い方が少し難しかったとき、それをグループの人にわかりやすく伝えようと努めることで、リーダーは言葉をいろいろ考えて選び、砕いていくわけですから、リーダー自身の語彙力や表現力も磨かれます。学習リーダーは確かにちょっと大変な面もありますが、それによって得られるもの、返ってくるものは、「国語力」という名のとても大きい財産になると信じてください。